

予基が東国を行脚した時に、
の葛城山に景觀が似ていた
られたといわれています。

●高福寺の文化財

(1) 木造阿彌陀如来坐像 (鎌倉時代・県指定文化財)

元は高福寺に接してあった越生分こゑうぶんの行庵寺ぎやうあんじの本尊でしたが、
両寺を合わせて行庵山高福寺の一寺とした時に、客仏きやくぶつとして
迎えられました。昭和53年、県の指定文化財となりました。

(2) 木造伝聖観音菩薩坐像 (南北朝時代・町指定文化財)

高福寺の本尊。台座下に衲衣の裾を垂らす垂下式衣文が特徴。宋元の大陸風の彫刻様式の影響が強く表れています。

(3) 安藤文澤一族の墓（江戸時代・町指定文化財）

幕末の種痘の創始者・安藤文澤一族の墓石群。中でも文澤と弟の東作（容致）の二人が両親のために建てた墓には、父・恒八の辞世の句が刻まれ、当時の名主層の特徴を見ることが出来ます。

「^{つき}月の^{あと}跡^{しと}慕^{とぶ}ふて飛^やほととぎす 八十三 恒翁



木造伝釈迦如来坐像
(資料館で保管中・県指定文化財)



龍谷山城跡（県選定重要遺跡）

台地を広く見渡せる龍谷山の山頂に、防御に優れた山城が築られました。ゴルフ場の開発でわずかな遺構を残すだけとなりましたが、空堀や平場は往時を偲ぶことができます。

大永4年(1524)、山内上杉憲房は北条方の毛呂氏を攻撃しました(毛呂合戦)。その時毛呂氏が立てこもった毛呂要害こそ、この龍谷山城ではないかという説もあります。

だいぎょうじ じ ざうもん
大行寺地藏尊（町指定文化財）

新川橋の傍らの覆屋に、秩父青石（緑泥片岩）で造られたお地蔵様が立っています。明治時代に廃寺になった大行寺にあったもので、県内でも珍しい室町時代の作です。